



今、ニッポンには  
この夢の力が必要だ。

**TOKYO●2020**

MAY 24, 2013

特定非営利活動法人東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会評議会は、2020年のオリンピック・パラリンピック競技大会招致をオールジャパン体制で推進するため、国、政府、経済界、スポーツ界、全国関係団体等の皆さまにより構成されています。

## TOKYO2020オリンピック・パラリンピック対談



市民を巻き込んだ  
東京大会の運営を目指そう!

第17回

**大西健丞** (おおにし・けんすけ) さん

NPO法人ピースウィンズ・ジャパン代表理事  
／公益社団法人Civic Force代表理事

ニッポン復活を主題に動き出した東京2020オリンピック・パラリンピック招致。小倉和夫評議会事務総長が各界で活躍している方々と対談し、東京で、日本でオリンピック・パラリンピックを開催する意義、目的、課題などを発信していきます。

### ■ジュニアオリンピックの予選にも出場

小倉 大西さんは、何かスポーツをされた経験がありますか？

大西 最近はブクブクと太っていますが、大学生まで水泳をやっていました。

小倉 種目はなんですか？

大西 バタフライです。体育会の水泳部に所属していました。

小倉 かなり本格的だったんですね。

大西 ジュニアオリンピックの決勝に出たこともあります。同じ決勝戦で競い合った選手がソウル・オリンピックに行ったりしました。高校生までは相当に速かったですよ、これでも。大学の時にはそれほど記録は伸びませんでしたが、体育会水泳部の主将をつとめたりもしました。

小倉 大したものですね。そうすると、オリンピックにもかなりの関心をお持ちでしょうね。

大西 ええ、最近では招致活動にも興味があります。

小倉 そうですか。それはどんな観点からですか？

大西 経済同友会の東京オリンピック・パラリンピック招致推進委員長であるローソンの新浪剛史さんから、招致活動を手伝ってくれと言われてまして。市民社会サイドからどんなアプローチが可能かということを実際に考えるようになりました。

### ■市民を巻き込む大会運営

小倉 大西さんはNGOやNPOの代表として、市民と社会の接点ということ意識されてグローバルに活動されてきました。オリンピック・パラリンピックにおける市民活動というとどんなことが考えられますか？

大西 僕がすぐにでもお手伝いできるのは、パラリンピックの方ですね。パラリンピックに参加される選手のお世話や観戦される身障者の方々に楽しんでいただけるようなお手伝いは是非ともやりたいです。それが、バリアフリーやユニバーサルデザインの問題を日本全体で考えていくための契機になると思いますから。オリンピックの大会運営に関しても、ボランティアで市民の方々に参加していただく仕組みを作っていくことは大切なので、その点でもお手伝いできるかと思います。

小倉 今回の招致活動でも、市民をいかにオリンピック・パラリンピックに結び付けるかがとても重要なことだと考えていま

す。特にオリンピックに関して言うと、世界的な祭典になりましたが、一人ひとりの国民とかけ離れたイベントになりつつあるような気がしてならないのです。毎日テレビで観戦しますが、どこか遠い世界で繰り広げられる天才たちのショーを見ているようで。だんだん自分たちとは遠い存在になっているという面もあるのではないですか。

**大西** それはおっしゃる通りだと思いますね。

**小倉** ロンドン大会でもボランティアの方々の活躍が大きく報道されていましたが、大会が成功するかどうかはいかに市民の皆さんを巻き込むかということにかかっているとも言えます。

**大西** そうですね、市民社会のネットワーク、僕は英語でよくシビル・ソサエティ・オーガニゼーション（CSO）と言うのですが、日本のCSOの持てる力を発揮すれば、とても面白いことがやれそうな気がします。

**小倉** 日本のCSOの成長も著しいものがありますね。

**大西** 僕が13年前に、NGOによる緊急支援を迅速に行うため、政府・経済界・NGOが連携する組織であるジャパン・プラットフォームを立ち上げた時には、運営資金は数百万円の単位でした。それが予算規模的には何十億の世界になっています。特に3.11以降はそうです。僕が代表を務める2つの団体だけでも、東日本大震災の支援では個人寄付のほかに1,000社以上の企業から資金や物質のご支援をいただきましたし、その一部は現地で働くNPOにも助成して復旧・復興活動を展開してもらいました。こうしたネットワークはすでにあるので、活用していけば市民一人ひとりが関われるオリンピック・パラリンピックの運営は可能だと思います。

## ■市民社会そのものを変えていきたい

**小倉** 大西さんは現在、どのようなミッションを中心に活動されているのですか？

**大西** 僕がいま力を入れているのは、企業や団体からの寄付や行政機関からの助成金・補助金などと、市民活動の最前線で活躍するNGO・NPOとをつなぎ、集まったお金の効果的な使い道を考えることです。東日本大震災支援にあたっては、2009年に設立したCivic Forceが企業・NPO・行政などの調整機関として、災害時に必要な情報・ヒト・モノ・資金を迅速に共有・活用するプラットフォームの役割を果たしています。

**小倉** ご苦労もおありだと思いますが、日本のCSOを育てていくために不可欠な存在ですね。



**大西** 僕たちの活動は非営利ですが、事業主体としての責任をもてるようにしていかなくてはなりません。予算を確保するためにファンドレイジングの制度を作らなくてはなりませんし、活動自体の透明性も確保しなくてはなりません。当然、プロフェッショナルなスタッフも必要になってくるわけです。そうなってくると、彼らにもきちんと給料を払わなくてはなりません。

**小倉** ボランティアだからと言って、無報酬というわけにはいきませんからね。

**大西** ボランティアリズムというのは確かに素晴らしい側面もあるのですが、それだけに頼ると、善意に溢れる奇人か、大金持ちの人しかボランティア活動に参加できないことになってしまいます。家族があって、生活費を稼がなくてはならない人にはとても無理です。

**小倉** そうなってくると、事業体として継続していくことは難しいですね。

**大西** 最近はプロボノ（各分野の専門家が、知識・スキルや経験を活かして社会貢献するボランティア活動）という言葉も出てきています。支援活動も複雑化、専門化してきていますから、専門家も含めて年間を通じて安定して働けるスタッフが必要になってきています。

**小倉** アマチュアリズムだけではもはや限界だということですね。

**大西** ええ、マネーフローをきちんとし、事業体としての精巧さを高めていかなくてはなりません。

**小倉** 行政だけでやろうとすると硬直化してしまう業務をフォローしていくためにも、民間でありながら公益を担うセクターを日本で育てていくことは今後の日本社会にとっても必要です。

**大西** オリンピック・パラリンピックの運営にCSOが関わっていくことで、日本の市民社会全体を変えていくことは十分可能だと思います。

## ■行き過ぎたコマーシャルイズムを是正

**小倉** オリンピック・パラリンピックの現状、または、あるべき姿について何かご意見はありますか？

**大西** ロサンゼルス大会以降、良くも悪くもコマーシャル的な要素が強まったと感じます。もっと社会性の高いイベントにシフトしていくべきではないかと思います。オリンピックですぐには無理だとしても、パラリンピックではそれが可能ではないですか。

**小倉** それは私も同感です。

**大西** 商業主義を採り入れたのは実にアメリカ的でもあったのですが、その一方でアメリカには市民社会の先進国という側面もあります。例えば、アメリカには社会性のある事業に対する投資減税という制度があります。この制度を利用すると、公益

性の高い事業に出資した場合、39%の減税を認めてくれます。つまり100万円を出資すると39万円を引いた額に課税されるわけです。

**小倉** 出資者としてはかなり大きいですね。資金が集まりやすい仕組みができていますね。

**大西** 当然、障がい者スポーツへの出資もその対象になるわけです。こうした制度が日本にあればパラリンピックの運営資金としても使えます。

**小倉** 日本の社会福祉政策のかなりの部分は、ボランティアによって支えられているわけです。大会開催を機に、そうした社会制度の改革にもはずみがつけばいいですね。

## ■過疎地のためにも東京に頑張してほしい

**小倉** 招致活動を通じて、東京の魅力を海外に伝えていきたいと思っています。未来の東京の姿に関して、何かご意見はありますか？

**大西** 実は僕、今は広島県民なんです。中国山地の山間にある神石（じんせき）高原町というところに、3年前から住民票を移して暮らしています。広島県のチベットなんて呼ばれるほど過疎化と高齢化が進んでいる地域ですが、そこで暮らして思ったのは、さまざまなことがいかに東京に一極集中しているかということです。

**小倉** 東京とその他の土地との関係を考えることも都民にとって重要ということでしょうか。

**大西** そうです。過疎地を甦らせるためにはやはり東京のコミットメントが必要だということです。東京は東京のみのことを考えるのではなく、日本の他の地域のことも考えて、東京の将来像を決めていかなくてはならないのです。東京は、ものすごいリソースが集積している都市です。ヨーロッパの一国以上にパワーがある都市ですから。支援制度や税制などを東京でまず整えることで、蘇る地域が数多くあります。そういった視点で、東京都は日本全体のグランドデザインを戦略的に考えてほしいと思います。

**小倉** オリンピックを一つの大都市で開催するのではなく、地方も巻き込んで開催するというアイデアがあってもいいですね。オリンピック・パラリンピックを一つの都市だけで開催するという原則には無理があるかもしれません。地域と連合でやるとか、新たな可能性があってもいいわけですね。

**大西** 東北の被災地も巻き込むとかですね。

**小倉** そうなってくると、オリンピック・パラリンピックに対する国民の意識も変わっていくでしょうね。

**大西** オリンピック・パラリンピックで東京の活性化を図り、なおかつそのモデルを東京都と協力しつつ、過疎地も含めて、全国的に展開していく。日本全国の過疎地のためにも、東京大会開催の意義はあります。

撮影＝大久保 恵造



### 大西健丞

NPO法人ピースウィンズ・ジャパン代表理事／公益社団法人Civic Force代表理事。英国ブラッドフォード大学大学院で平和学、紛争解決学を学ぶ。大学院在学中、単独でイラク北部クルド人自治区に入り、卒業後はNGOのイラク北部担当調整員として現地に赴く。1996年にNGOピースウィンズ・ジャパンを設立。以来、コソボ、東ティモール、アフガニスタンなどで支援活動に従事。2000年にはジャパン・プラットフォームの設立に関わり、現在、理事を務める。2009年にCivic Force設立。



### 小倉和夫

特定非営利活動法人東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 評議会事務総長。1938年生まれ。東京大学法学部、英国ケンブリッジ大学経済学部卒業。1962年外務省入省。文化交流部長、経済局長、外務審議官、駐ベトナム大使、駐韓国大使、駐フランス大使などを歴任。2003年10月から 2011年9月まで独立行政法人国際交流基金理事長を務める。青山学院大学特別招聘教授。

## ニュース

2013年05月16日

[愛知県で初の招致PRイベント！介助犬フェスタ2013に招致ブースを出展！](#)

2013年05月16日

[よみうりリサイクルカーニバル 2013 所沢航空記念公園ブース出展](#)

2013年05月14日

[東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致ナイター開催！](#)

2013年05月10日

[東京 2020 オリンピック・パラリンピック招致委員会 外国特派員協会にて記者会見](#)

2013年04月26日

[TOKYO2020 未来への提言 株式会社ローソン代表取締役社長CEO 新浪剛史さん](#)

2013年04月26日

[RUN FOR AFRICAでの招致PRのご協力](#)

2013年04月18日

[プロバスケット東京サンレーヴスホーム最終戦での招致PRのご協力](#)

2013年04月15日

[世界フィギュアスケート国別対抗戦が代々木競技場で開催されました！](#)

ご意見、ご質問があればこちらまでどうぞ。[info@tokyo2020.jp](mailto:info@tokyo2020.jp)

特定非営利活動法人東京2020オリンピック・パラリンピック招致委員会 – Tokyo 2020 Bid Committee. All rights reserved